

学校だより みんなの森合小

～自分でチャレンジ みんなとチャレンジ 最後まで～

NO. 19

令和4年3月18日

発行者

森合小学校長 渡邊かほる



6年生へ 心を込めて ありがとう

3月10日、5年生が中心になり企画した「6年生を送る会」が行われました。感染予防のために、コンピューター室から、全校生に配信し工夫しました。6年生への感謝の言葉や、6年生から在校生への言葉を代表が伝え合いました。また、在校生から、なかよし班で一緒だった6年生にメッセージなどのプレゼントが手渡され、6年生から在校生に、メッセージ入り手作りメダルが送られました。お互いがお互いを想い合う心がこもった素敵な会でした。その日は、6年生のためにバイキング給食も開催され、6年生にとってスペシャルな1日となりました。



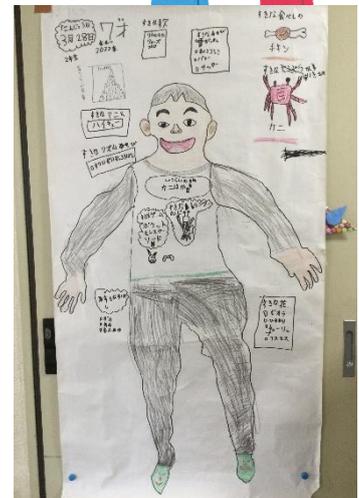
【6年生のためのバイキング給食と準備されたメニューカード】

子どもたちの学び！ ～掲示物から伝わってきます～

予定していた学年ごとの学習発表会が、残念ながら中止になってしまいましたが、子どもたちの学びは、止まっていません。校内を見て廻っていると、写真にあるような学びの足跡が、たくさん掲示されています。全部紹介できないのが残念です。子どもたちの学びの様子が、掲示物から伝わってきます。



【廊下や教室に掲示されていた子どもたちの作品】



【臨時休校への対応ありがとうございました】

突然の夜中の大地震。揺れの大きさに、不安や恐怖を感じたことと思います。安全確認のために、急な臨時休校へのご対応ありがとうございました。3月11日の全校集会で、東日本大震災の話をしたばかりでした。その時にまとめた子どもたちの考えの一部を、裏面に掲載いたしましたので、ご覧ください。

【オミクロン株は、予防していても感染します】

現在流行しているオミクロン株は、インフルエンザのようなものと言われ、学級閉鎖などの対応について、疑問を呈している専門家もいるほど、何が正解か分からないというのが現状です。必要以上に、反応して騒ぐことは、よくありません。「誰でも感染する」と自分事と捉え、冷静に対応していきたいです。

おいせ

離任式について

日時 3月29日(火) 8:30

場所 各教室 オンライン配信

- 春休み中に行われますので、登校日ではありません。参加については、自由です。安全確認のため、登校しない場合は、ご連絡くださいますようお願いいたします。
- 花束などの贈り物等は、お断りしています。
- 登下校事故のないようご配慮願います。

森合小のみなさん
福島県民の一人として

2011年(11年前)
東日本大震災
知っていますか?
どう考えますか?



東日本大震災の時、ぼくはまだ生まれていなかった。けれど、東日本大震災の話を知って、東日本大震災の津波の動画を見て悲しい気持ちになった。これからも、福島県で頑張る。

怖いなあと考えた。もし東日本大震災のような地震があった時が心配だなと思った。たくさんの人たちがなくなっただけでかわいそうだなと思った。絶対に、二度と11年前みたいなことは起きてほしくない。自分でできることはやる。たいへんだとしても、それが、もしかしたら未来につながるかもしれない。

忘れてはいけないと思った。放射線は特に危険で外にも行けないという大変なことだと思った。東日本大震災の最大震度が6強ということで、すごい地震だなと思った。東日本大震災の影響で自分の住んでいる街に、戻れないという人がいて東日本大震災は、決して忘れてはならない事だと思った。まだ、見つかっていない人もいるということで、東日本大震災というのは決して忘れてはならない大切なことだと思った。

生まれる前から、知らないことだらけだけど、たくさんの人なくなっただけで、みんなひどい目にあっただけは分かる。だから、知っていることを、生かしてできることは、やる。例えば、ボランティアや地震対策など、そういうことしかできないけど、被害を少なくするために、できる限りのことはやる。そうすれば、被害が少なくなるかもしれない。みんなも家族も、ちょっとだけでいいから安心してほしい。そうするために、自分も努力する。

ぼくは、東日本大震災を経験していないけど、家族やニュースで聞いて、大変だったことを知った。地震や津波はとっても怖いので、避難訓練をしっかりと、自分や友達の大切な命を守るようにしていきたい。

東日本大震災で、原子力発電所は、爆発して、人が住めなくなっただけで、牛や野菜が育てられなくなった。もし、また、大きな地震が起きたら、悲しい思いをするから、原子力発電所の数を減らして、別の方法でエネルギーが作れるようになると思う。

2万人以上の人々が震災で亡くなったとニュースで報道されていたので、今生きている人はつらい思いをしているんだと思う。家がなくなったり、いまだに避難生活を送っている人もいるのに、自分は何もしなくていいのかと疑問に思っている。そして、学校で

「3・11未来へつなぐ集会」に参加した時、「学校での募金活動で集まったお金の一部は、被災地の復興に役立てられる」と聞いた。やっぱり、そういう活動が大切だなと感じた。被災した人は、「応援してほしい」と思っているはずなので、復興面だけでなく被災者の精神面でも役立つと考えている。だが、亡くなった人々は、生き返ってはくれない。なので、亡くなった人の分も健康に生きたい。そして被災した人は苦しくてもつらさに負けずに頑張してほしい。

僕は、生まれていなかったから、震災のことは知らないけれど、お母さんの話を聞いて、怖いと思った。もし、また地震が起きたら、みんなと協力したい。

東日本大地震

*2011年 3月11日

巨大地震 14:46

大津波 15:42

2011年 3月12日

原子力発電所事故15:36